

問題文

- 6 打者の離れたバット全体がフェア地域に飛び、打球を処理しようとしていた野手に偶然当たったので、その野手は守備できなかった。打者に妨害は宣告されない。 (×)

参照

5.09(a)打者アウト(8)[原注]

(前段省略)

バット全体がフェア地域またはファウル地域に飛んで、プレイを企てている野手(打球を処理しようとしている野手だけでなく、送球を受けようとしている野手も含む)を妨害したときには、**故意であったか否かの区別なく、妨害が宣告される。**(後段省略)

問題文

- 7 フェアボールを打った打者が、一塁に触れる前に、一塁手がグラブを胸にかぶせるようにしてボールを捕らえ、一塁に触れた。その直後に打者走者が一塁を踏んだ。打者走者はアウトである。 (×)

参照

5.09(a)打者アウト(10)[注]

触球するに際しては、まずボールを保持して触れることはもちろん、触球後においても確実にボールを保持していなければならない。また、**野手がボールを手にしていても、そのボールをグラブの中でジャグリングしたり、両腕と胸とでボールを抱き止めたりしている間は、確実に捕らえたとはいえないから、たとえ打者が一塁に触れる前に野手が塁に触れながらボールを手にしていても、確捕したのが打者が一塁に触れた後であればその打者はアウトにならない。**

問題文

- 8 走者が本塁に走り込んだ際に、本塁に触れないで、しかも本塁に触れ直そうとしないでダッグアウトへ向かった。審判員はアピールを待つことなく、走者にアウトを宣告する。 (×)

参照

5.09(b)走者アウト(12)

走者が本塁に走り込むか、または滑り込んだ際に、**本塁に触れないで、しかも本塁に触れ直そうとしないときに、野手がボールを持って本塁に触れて審判にアピールした場合。**

【原注】本項は、本塁に触れなかった走者がベンチに向かっており、アウトにするためには捕手はその走者を追いかけておかないような場合に適用される。**本塁を踏み損ねた走者が、触球される前に踏み直そうと努力しているような普通のプレイが行われているときは適用されない。**この場合には、走者は触球されなければアウトにはならない。

5.09(c)アピールプレイ(4)

走者が本塁に触れず、しかも本塁に触れ直そうとしないとき、本塁に触球された場合。